

《中央テレビを透視する》講義概要

1、講師の紹介：

庄永志，南京大学新聞メディア学院副教授、ラジオテレビ学部主任，清華大学新聞専攻修士課程指導教官を兼務。これまでに、中国中央テレビ《ニュース調査》企画、《焦点訪談》主編、ニュースセンター企画部制作担当などを務めた。主に重大突発事件の報道や時事・調査報道を担当し、中国ニュース賞二等賞、国家ラジオテレビ総局ラジオテレビ新聞賞一等賞を受賞した。

2、講義の目標：

国家機密を漏らさず、プロフェッショナリズムを堅持するという原則の下、15年のテレビ局での経験を結合させ、内部者と観察者という二重の身分を活用し、近年の中国中央テレビの主要なニュースや典型的な報道を分析する。中央テレビがどのようにニュースを作り出しているのか、報道の方向性やニュアンスはどうであるのかを知ることにより、中国メディアにおけるイデオロギー形成の実態をより具体的に明らかにすることができる。

3、授業の内容

単元	授業内容
第一単元	時事ニュースの脚本 重要会議、式典、外国訪問の報道スタイルの解析
第二単元	調査報道の苦境 解析《焦点訪談》と《ニュース調査》における失焦現象（焦点がぼやける現象）
第三単元	公共政策報道と法制報道の限界 都市化、二人っ子政策の報道の不足と法制報道がいわゆる「三鶏ニュース」化する原因の解析 三鶏「鶏毛蒜皮、鶏零狗碎、鶏飛狗跳」（些細なこと、瑣末なことにこだわったり、驚き慌てふためいたりする）
第四単元	国際ニュースと人物報道のアピール 《環球視線》と「廊下の医師」及び「最も美しい」シリーズを取り上げ、そこに描かれるロジックと専門分野における失策について考える。 「廊下の医師」（走廊医生）元四川省綿陽市人民医院超音波科主任の蘭越峰がこのように呼ばれた。過剰な医療の問題を指摘した蘭は病院に通勤しても仕事をさせてもらえない状況に追い込まれ、1年あまりの間、毎日廊下で座って過ごした。
第五単元	文化報道と健康報道の欠陥 日常の文化関連ニュースと健康に関する報道の不足を解析し、崔永元の映画報道を事例に、その欠陥を克服するための突破口を探る。
第六単元	ニュース速報の時効 四川大地震、マレーシア航空事件などの報道の遅延と切断点を分析する。

4、参考文献：

- 1) 孫玉勝著：《十年：从改变电视的语态开始》（修订版），人民文学出版社，2012年5月第一版
- 2) 徐泓编著：《不要因为走得太远而忘记为什么出发：陈虻，我们听你讲》（修订版），中国人民大学出版社，2015年1月第一版
- 3) 柴静著：《看见》，广西师范大学出版社，2013年1月第一版

5、講義日程

2016年2月9-11日を予定（東京大学駒場キャンパスにて）

*受講希望者は、2月3日までに、阿古智子に連絡してください。（連絡先は、学内掲示板で確認すること）